

定期的な栽培講習と現地検討会で反収増加を目指す

令和7年度は、25戸で331a作付。近年の異常気象による少雨、猛暑の影響で肥大不足となり、収穫量は計画を下回りましたが、品質の徹底で高単価を維持することができました。

反収賞では渡辺俊博さんを表彰。渡辺さんはショウガ栽培3年目。平均反収1.6tに対し4.3tを収穫。「講習会での指導を着実にできるように努力した。賞をいただきうれい」と話しました。

令和8年度は、減農薬、他園芸品目の複合経営による生産性向上、優良種ショウガの供給体制の確立などに取り組み、収量アップを目指します。優良種子の確保、安全・安心な生産、販売先との情報交換強化で出荷量80t、10a当たり平均収量2.5tを目標に部会一丸となって努力します。

ベテランから若手まで幅広い生産者が知恵を分かち合い、更なる品質向上に努力します。栽培講習や現地検討会で、生産現場に合わせた指導に力をいれます。



森部会長あいさつ



表彰を受ける渡辺さん

オクラ部会 令和7年度総会・出荷反省会 R8.2.27

高品質を保ち、出荷規格変更で所得向上

令和7年度の出荷期間は昨年5月から11月下旬。34戸がハウス栽培49a、露地栽培199aに作付。猛暑や少雨に悩まされましたが、部会員一丸となって品質向上に取り組み、数量・販売高を保つことができました。出荷数量38万7021パック(1パック80g:前年対比107%)。販売高3063万2115円(同96%)単価79円(同89%)。

8月の酷暑など栽培環境は厳しく、1ネットのグラムや箱詰めの出荷規格が県内統一となり、作業の手間や価格が心配されましたが、部会員の努力により、前年並みの出荷ができました。

令和8年度は、酷暑に対応した栽培管理の構築を検討します。

SNSを活用した産地情報、市場動向を迅速に共有し、販売にも力をいれていきます。

〈10a当たりの出荷量上位者を表彰〉

▽ハウス栽培の部=三角修、田中陽一

▽躍進賞=橋本隆弘

▽露地栽培の部=池田一実、小西隆次



米村部会長あいさつ



表彰状を手にする受賞者

にんにく部会 令和7年度総会 R8.3.11

品質向上と販路拡大に力

にんにく部会では16戸が20haで栽培。5月下旬から6月上旬まで生ニンニクを、その後は乾燥ニンニクを中心に出荷しています。品質良好で出荷を終えました。役員改選があり、田尻洋成さんが新部会長に就任。新体制のもと令和8年度は、更なる品質向上と出荷先の販路拡大に力を入れます。



水上部会長あいさつ



新部会長に田尻さん

新役員です。よろしくおねがいします。



新部会長
田尻さん